

# 学び舎ひまわり第4講

## 協働による地域づくり 実践事例に学ぶ

### 開催報告

DATA

日時 平成27年 11月 14日(土) 9時20分~16時

会場 芹が谷中学校→野庭地域ケアプラザ

受講生 29名(地域 23名 区役所 6名) 欠席者 8名(地域 6名 区役所 2名)

午前：現地視察「芹が谷町内会における防災の取組と芹が谷中学校防災拠点訓練」



小雨が降る中、いっとき避難場所に集まった住民の皆さんと一緒に中学校に向かいます。



町内会ごとに集合した後は3つのグループに分かれ、障害者の方から話を聞き、理解を深めます。



訓練には芹が谷中学校の1年生も参加。中学生は地域の貴重なチカラとなります。

#### 若林会長のはなし



- ◎芹が谷町内会は1850世帯、3つの防災拠点に分かれています。いっとき避難場所は53か所、より身近な小さい単位でお互いの安否確認をしています。場所は掲示板の前やごみ集積所などちょっとしたスペースで目印としてシールが貼ってあります。
- ◎拠点で使用する『避難者カード』は町内会の『安否確認カード』も兼ねているので、町内会の方で使いやすいように項目などアレンジすることも考えています。
- ◎災害時は自分たちの力で切り盛りをしていかなくてはならない。そのための仕組みをきちんと作っておく必要があります。
- ◎障害者の方から話を聞き、理解することで、災害時にもしっかりと対応が出来ると考え、今回の訓練に取り入れました。

午後：区内実践事例の紹介

★オーバーナイトキャンプで子ども達に防災の意識を！～さつき台自治会 発表者：山脇朋子



下永谷小学校を会場に行っていた子ども達対象のオーバーナイトキャンプ。当初はテントでの寝泊りなどを楽しむだけだったところ、『テント生活や炊き出しは防災訓練にもなっている』という発想で、8年前から防災訓練を兼ねて行うようになりました。消火器の取り扱い、起震車体験、毛布担架リレーなど、子ども達は楽しく防災に関する意識を高めることが出来ます。また運営面でも自治会と子ども会、子ども会OB、さつき会(有志の高齢者グループ)が協力し合い、たくさんの工夫をこらして子ども達にとって思い出に残るよう頑張っています。

★キャンドルで魅力アップ！雑色町内会のつどいinキャンドルナイト～雑色町内会 発表者：石沢章子



連合納涼祭の会場変更の影響で開催が危ぶまれた町内会の祭り。そこでかねてからあためていたキャンドルナイトの企画を町内会長に相談、委員会を立ち上げ、実現させることになりました。地元中学校のジャズ部に出演してもらうことで、中学校との関係づくりを、キャンドルホルダーづくりを通して町内会相互の絆づくりを意識。看板は地域に住む『匠』(大工さん)が作成するなど、協力者を増やしながらか計画をすすめました。

当日は多世代交流の場となり、町内会の活性化にもつながるイベントになりました。今後は運営側に若い人たちを加え、子ども会とも連携していきたいと思ひます。

★2色のバンダナを活用！災害時支え合いの仕組みを構築～日野町内会 発表者：田代孝之



連合の意見交換会で「もっと障害者に対する理解を深めてほしい」という声があり、何か出来ないかと思ったのが、この仕組みを考えだしたきっかけ。  
区社協より配布されていた災害時支援用の黄色と緑のバンダナにそれぞれ「手をかしてください」「手つだいましょうか」と手作業でアイロンプリントをし、高齢者に敬老のお祝い品と一緒に配付しました。2色のバンダナでお互いの状態を示すことで、より気軽に声を掛け合い、支え合いの仕組みが作られていくと考えています。連合内でも取り入れたいという声があり、今後はこの取組を、もっと広めていきたいと思っています。

★いつでも笑顔がいっぱい！高齢者サロン「笑福会」～日野第三町内会 発表者：河野巳年子、栗原富子



ひとり暮らしの男性の「本当は外に出て交流したい」という声を受け、民生委員が町内会長に相談し、町内会館を利用した高齢者サロン「笑福会」がスタート。麻雀や将棋、折り紙、エコクラフト、またひたすらおしゃべりをするなど、楽しみ方は様々で笑いが絶えません。回を重ねるごとにお互い気心が知れ顔見知りになり、まちで会った時にあいさつをするなど、自然につながりと支え合いのきっかけになっています。また毎月広報誌を発行していることで、いつも新しい方の参加が絶えません。スタッフはいつも参加者の要望に応えること、そして感謝の気持ちを忘れず、自分たちもやりがいを感じています。

★様々な場面で活躍中！「青少年部」の立ち上げ～玉興町内会 発表者：間宮一彦



長年子ども会会長を務めてきて、若い力をもっと生かしていきたい思いがありました。子ども会OBの高校生2人に話をしたところ、青少年部の立ち上げに賛成してくれ、12名の仲間が集まりスタートを切りました。現在青少年部は50名。小学6年生が子ども会を卒業した後は青少年部に入るようにしています。  
地域の若い力は貴重。青少年部は様々な行事で運営に協力してくれ、活躍しています。現在子ども会の予算で活動しているが、今後は町内会の青少年部として予算取りをし、さらに活動を広げていきたいと思っています。

テーマ別意見交換と発表

午前の現地視察を含めた6つのテーマに分かれての意見交換。受講生の皆さんの希望を考慮し、途中グループ替えをして2つのテーマについて話をさせていただきました。

【主な意見・感想】

防災の取組・芹が谷中学校防災拠点訓練～芹が谷町内会

- ★障害のある方たちに私達はどう対応したらいいか分かった。
- ★動員を特につけなくても、参加者がたくさんいるのがすごい。
- ★拠点と町会の役割を分けて、対応を考えていきたい。



オーバーナイトキャンプ～さつき台自治会



- ★「キャンプ」という響きが良い。必要物品を自分達で集める方法も参考になった。
- ★子ども会のイベントがマンネリ化しているので、防災訓練を兼ねることも考えながら取り入れてみたい。
- ★実施する場合、スタッフ確保の工夫が課題になりそう。

雑色町内会のつどいinキャンドルナイト～雑色町内会

- ★世代を超えた参加者が集まり、新たな交流の場が生まれたことが素晴らしい。
- ★今回の活動を通して新たな担い手が広がるように感じた。住民同士のコミュニケーションにつながっている。
- ★ピンチをチャンスに変えた。アイデアが人を動かし、大きな動きになっていったことに勇気をもらった。



裏面に続く

## 2色のバンダナで支え合いの仕組みを構築～日野町内会



- ★既にある物を活用し、利用の対象を障害者だけでなく高齢者全体へ広げたことがすごい。敬老のお祝いとあわせて配ったこともいいと思った。
- ★災害時だけではなく、日常的に使用することで普及への一助となっている。
- ★区内で統一した仕組みにすることはできないか？

## 高齢者サロン「笑福会」～日野第三町内会

- ★サロンの中で参加者のトラブルは全くなく、参加者が明るい雰囲気で開催されている。
- ★参加者ひとりひとりの個性を見て、それを活かせる場づくりをしているのが素晴らしい。
- ★サロンに家庭防災員を招き話を聞くなど、防災の取組と何か連携ができないか。



## 青少年部の立ち上げ～玉興町内会



- ★活動が子ども会から青少年部、そして町内会へとつながっている。その原動力となっているのが青少年部。
- ★会長がお母さん達とのつながりを生かし、ある程度子ども達にまかせているというスタンスが素晴らしい。
- ★次世代の役員に親が入ってきていることに感心した。

## 【内海先生より総評】



活動の継続には人・もの・資金が必要だが、何よりも皆さんに「思い」があることが取組の実現につながっています。また色々な局面でそのまちならではの人と人とのつながりを生かしていることを感じました。

これからは、持ち味のある人をどう地域に取り込んでいくかがポイント。

## 学びのまとめ 集計結果

回収数：27件 回収率：93.1%

満足	やや満足	やや不満	不満	無回答 (早退者等)
23	2	0	0	2
86%	7%	0%	0%	7%

## 受講生の意見

- 他の地域の取組を見聞きすることは、自分の町内会のことをふりかえるのにいい機会となる。
- 防災拠点訓練は地域ごとにやり方が異なるが、他のところを見学できたのは大きな収穫。
- 実際に地域で精力的に活動されている生の声（苦労したこと、工夫したこと）を聞いて大変参考になった。
- 防災、子ども、高齢者、障害者など、どこの地域でも課題となっていることに対し、一歩踏み出していることが紹介されていた。一歩を踏み出すことの重要性を感じた。
- 実際に立ち上げようと思っていた事案があったので、とても参考になった。
- 地域によって同じテーマでも一様に取り扱えないことが良く分かった。
- 拠点訓練では話が聞き取りにくかった。
- 意見交換は1人1つのテーマで話せばいいと思った。もっと深く話したかった。
- あわただしさを感じた。